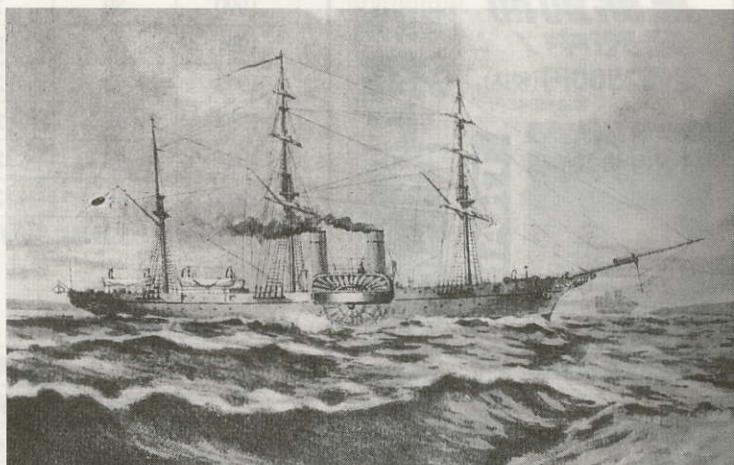


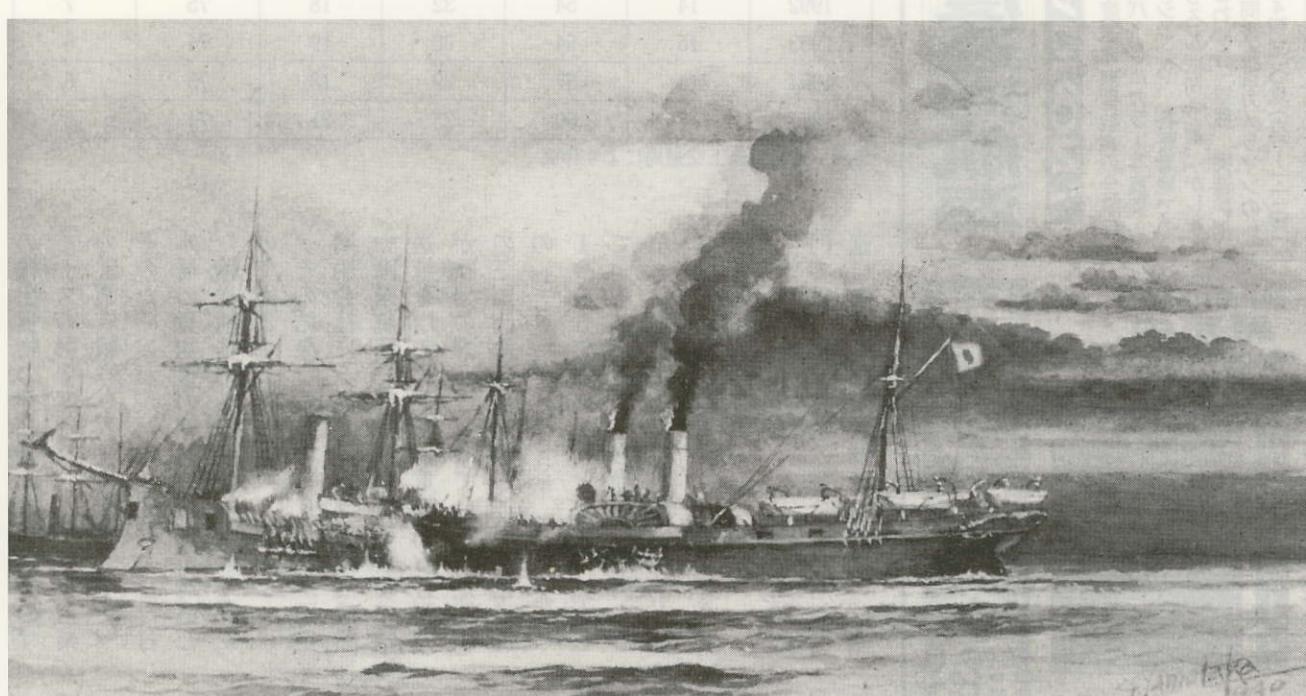
(明治3年)

量出船		入列船		開港三		量出船		入列船		開港三		量	
出港		入列		開港三		出港		入列		開港三		量	
01		01		01		01		01		01		01	
02		02		02		02		02		02		02	
03		03		03		03		03		03		03	
04		04		04		04		04		04		04	
05		05		05		05		05		05		05	
06		06		06		06		06		06		06	
07		07		07		07		07		07		07	
08		08		08		08		08		08		08	
09		09		09		09		09		09		09	
10		10		10		10		10		10		10	
11		11		11		11		11		11		11	
12		12		12		12		12		12		12	
13		13		13		13		13		13		13	
14		14		14		14		14		14		14	
15		15		15		15		15		15		15	
16		16		16		16		16		16		16	
17		17		17		17		17		17		17	
18		18		18		18		18		18		18	
19		19		19		19		19		19		19	
20		20		20		20		20		20		20	
21		21		21		21		21		21		21	
22		22		22		22		22		22		22	
23		23		23		23		23		23		23	
24		24		24		24		24		24		24	
25		25		25		25		25		25		25	
26		26		26		26		26		26		26	
27		27		27		27		27		27		27	
28		28		28		28		28		28		28	
29		29		29		29		29		29		29	
30		30		30		30		30		30		30	
31		31		31		31		31		31		31	

# 榎本艦隊の主役として孤軍奮闘



「回天」(造船協会『日本近世造船史』より)



宮古湾海戦の「回天」(右)と「甲鉄」(山高五郎『日の丸船隊史話』より)

# 回天

※主要目※ コルベット艦、木造、排水量1,678トン、長さ（上甲板）70.1メートル、船体最大幅10.5メートル、主機不明、出力400公称馬力、外輪推進、速力12ノット。備砲（箱館戦争時）50ポンド前装施条砲1門、40ポンド前装施条砲10門ほか。安政2年（1855）プロシア軍艦ダンツィヒDanzigとしてダンツィヒで竣工。のち英國に売却されイーグルEagleと改名。慶應2年（1866）江戸幕府が購入。明治2年（1869）箱館戦争で戦没。

## 宮古湾海戦

箱館を拠点に明治新政府に対抗した榎本武揚（たけあき）ひきいる旧幕府艦隊は、明治2年3月（1869年5月）、宮古湾に停泊する政府艦隊の奇襲を計画した。接舷戦闘によると「甲鉄」（原名ストンウォール）の奪取が狙いだつた。

接舷戦闘は海兵隊の古戦法である。「回天」に乗り組んだフランス人軍事顧問が、作戦を指導した。「開陽丸」を江差でうしなった榎本艦隊は、攻撃・防御力抜群の「甲鉄」を奪い、劣勢を挽回しようとしたのだ。

作戦には「回天」「蟠龍（ばんりゆう）丸」「高雄丸」の3艦が参加。艦隊指揮は荒井郁之助、斬込隊指揮は土方歳三がとつた。予定では「蟠龍丸」と「高雄丸」が「甲鉄」を挟むよう接舷し、斬込隊が乗り込んで敵艦を奪取。「回天」は周辺の政府軍艦を砲撃する手はずだつた。

3月21日（陽曆5月2日）、3隻は箱館を出航した。だが、「蟠龍丸」は荒天で脱落。「高雄丸」も機関故障で脱落。結局、荒井司令官は「回天」だけで奇襲することを決めた。

同25日（同6日）早朝、「回天」は米国旗を掲げ、米国船になりすまして湾内に侵入した。湾内には、新政府艦隊がボイラーの火を落として停泊していた。米国旗を掲げていたことに加え、外形も変わっていたため、新政府艦隊は「回天」とは気がつかなかつた。3本マストの「回天」は、榎本艦隊の北上中、房州沖で嵐に遭つてマストを折られ、2本マスト（一本は仮設）になつていたのだ。

ただちに開戦。「回天」は米国旗を日章旗にかえ、船首を「甲鉄」の左舷に突入させた。不意打ちは成功したが、外輪船の「回天」は、舷側を並べて接舷できなかつた。そのため戦闘場所が船首だけとなり、斬込隊の行動はいちじるしく制限された。

加えて、突入した船首は「甲鉄」の上甲板より3メートルも高かつた。「甲鉄」の舷側が低かつたからだ。飛び降りる斬込隊は「甲鉄」のガットリング機関銃に狙い撃ちされ、死傷者が続出。艦長甲賀源吾も戦死した。攻撃は中止され、「回天」は退却した。

大正時代、「宮古港戦蹟碑」が宮古の大杉神社に建てられた。碑文は東郷平八郎の筆である。東郷は海戦のとき、砲術士官として政府艦隊「春日丸」に乗り組んでいたのである。

## 箱館湾海戦

「回天」は木造コルベット艦である。外輪機関とバーク帆装を装備。安政2年（1855）、プロシア軍艦「ダンツヒ」Danzigとしてダンチヒ（現グダニスク）で誕生した（英國建造説もある）。船体にはプロシアのオーク材を使用。汽機とボイラーハウジングは英國製だった。兵装を含む艤装は、英國でおこなわれたようだ。

隊は「回天」とは気がつかなかつた。3本マストの「回天」は、榎本艦隊の北上中、房州沖で嵐に遭つてマストを折られ、2本マスト（一本は仮設）になつていたのだ。

ただちに開戦。「回天」は米国旗を日章旗にかえ、船首を「甲鉄」の左舷に突入させた。不意打ちは成功したが、外輪船の「回天」は、舷側を並べて接舷できなかつた。そのため戦闘場所が船首だけとなり、斬込隊の行動はいちじるしく制限された。

だが、榎本艦隊は結局、明治2年5月（陽曆6月）の箱館湾海戦で壊滅する。宮古湾海戦から2カ月足らずのことである。

箱館湾海戦における榎本艦隊の陣容は、「回天」「蟠龍丸」「千代田形」の3隻。対する政府艦隊は「甲鉄」「春日丸」「朝陽丸」など6隻。質量ともに政府艦隊が優勢であつた。出島が英國王室のロイヤルヨットという異色の軍艦「蟠龍丸」（169号本連載で紹介）が、12ポンド砲で「朝陽丸」を沈めたのが、榎本艦隊の最後の戦果であつた。

主力の「回天」は、12ポンド以上の砲弾を105発も受けた。うち4発は「甲鉄」の300ポンド砲による命中弾である。操船困難になつたが、沈没には至らなかつた。

最後は、弁天台場の近くに擋座し、浮砲台となつて戦つた。が、上陸した政府軍に背後から砲撃を受け、万事休した。荒井司令官と乗組員は「回天」から退去した。その後、船は政府軍によつて焼き払われた。